

第4章 施策の基本的な考え方

1 課題の捉え方と3つのビジョン

■ 課題の捉え方

第3章で述べたように、乳幼児期における早期の気づきの重要性や学校等における支援体制の充実、専門性の向上など、それぞれの学びの場において解決すべき課題があることが分かりました。

また、就学や入学時の支援や高等学校受検時の中・高連携、就労における学校と企業との連携など、それぞれの学びの場や関係機関をつなぐ切れ目ない支援が重要であることや、保護者や県民へ向けた理解啓発については、今後も引き続き内容や方法の充実を図りながら取り組むべき課題であることが分かりました。

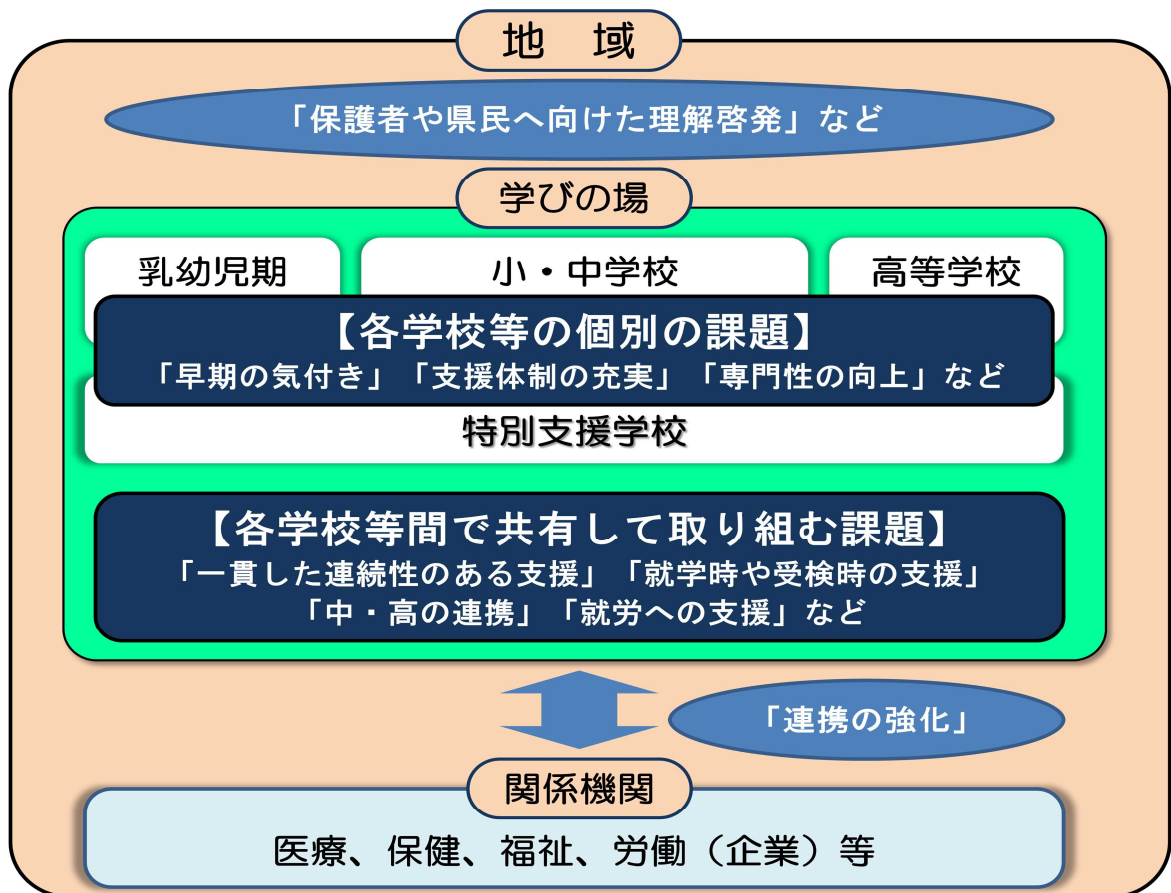


図1 課題の捉え方(イメージ)

子どもの成長は、それぞれの発達の段階や学びの場で区切られているものではありません。

障がいのある子ども一人一人の学びのニーズに応じた教育を実現するためには、乳幼児期から卒業後までの切れ目ない支援や指導者の実践的指導力の向上、また、そのための支援体制や教育環境の整備等が必要であり、さらには、共に取組を支える保護者、県民に向けての理解啓発など、総合的な視点に立った施策の実行が必要となっています。

このような視点から、引き続き、これまで取り組んできた3つのビジョン及び6つの施策の柱を継承しながら、子ども一人一人の学びのニーズに応じた質の高い教育の実現を目指し、課題解決に向けた取組を推進します。

■ビジョン1 「一人一人を見守り続ける」

障がいのある子どもの教育的ニーズに応じた支援を行うため、乳幼児期の段階から、子どもの成長とともに支援をつないでいく体制を整えること

■ビジョン2 「多様な学びを支える」

障がいのある子どもがそれぞれの学びの場において適切な指導と必要な支援を受けるため、地域や学校の支援体制を整え、教職員の実践的指導力や専門性を高めていくこと

■ビジョン3 「社会との絆をつなぐ」

障がいのある人が積極的に地域社会に参加できる環境を整え、障がいのあるなしにかかわらずお互いを認め合う豊かな社会づくりを目指すため、障がい種に応じた適切な教育環境の整備や、県民や次の世代を担う子どもたちへの理解啓発を行うこと